

自発的、自治的な集団づくりを通して育む規範意識 —規範を内面化していくための指導行動と活動プログラムの開発—

山口 賢

よりよい学級集団を育成していくためには、多様な価値観を認めながら、他者と協調して活動できる規範意識を育むことが求められる。そのためには、学習規律を確立するなど、学級に集団の規範を共有する教師の指導行動を考えることが重要になる。また、望ましい集団活動を通して、より自律的な規範意識を育てていくことが大切である。そこで、本研究では、規範を守ろうとする学級の雰囲気をつくるための教師の指導行動の在り方を提示した。また、自発的、自治的な活動ができる集団を育成していくために、発達の段階に応じた規範意識を育む活動プログラムを開発した。

第1章 自発的、自治的な集団づくりをめざして

第1節 多様化する子どもの価値観に対応するために

学級集団育成上の課題は、教師の側面と子どもの発達の側面から「豊かな人間関係を築くこと」「規律や規則を守ること」の二つであると考えた。

この二つの課題は別々の課題ではない。人間関係を築くためには、子どもたちが学級の中で自分を出せる安心感が必要である。そして、安心感のある学級にするためには、ルールを守ることが必要になるからである。

この二つの課題を克服するキーワードが、規範意識の育成であると考えた。規範の意義を感じさせ、同じ規範を学級で共有することで、多様な価値観をもった子どもたちがつながり、望ましい集団へと高めていくことができる。また、規範を形成することが、自己実現をめざし、個性を輝かせることのできる人間関係や集団をつくっていくことにつながる。そして、子どもたちの規範意識を育むということは、他者とつながり、自分を輝かせていくための力を育てる礎になると考える。

第2節 集団づくりと規範意識の育成

規範意識は、望ましい集団づくりを通して育まれていく。まず、望ましい集団に必要な条件を「集団規範の共有」「目標づくり」「目標達成のための話し合いと実践」「役割遂行と振り返り」「心理的な結びつき」「所属感、連帯感」「認め合う人間関係」の七つに設定した。

教師が、学級に集団規範を示すことで、子どもたちは集団活動の中で、規範の大切さを実感していく。こうして、集団規範が共有されると、更に望ましい集団活動が行われるようになる。このようなサイクルの中で、学級に規範を守る雰囲気がつくられ、一人一人の規範意識が高まると考える。

第2章 集団規範を内面化し、規範意識を高めるために

第1節 教師の指導行動がつくる集団の基礎

集団規範を共有することが、集団の基礎をつくることになる。その集団規範を示し、共有できるようにするのが教師の指導行動である。教師の指導行動については、授業記録を基に「目的をもつことができるようにする」「きまりや約束を明示する」「きまりや約束を守ろうとする雰囲気をつくる」「振り返りをする」「人間関係をつくる」という五つの項目とし、ポイントをまとめた。

指導行動をまとめる中でわかってきたことは、子どもたちの自律性に働きかけ、自分たちで考え、判断できるように教師が支えていくことが重要だということである。そのことを日常的に意識し、子どもたちに働きかける指導行動を積み重ねていくことが、規範を守る学級の雰囲気を醸成し、よりよい集団の基盤を築いていくと考える。

第2節 規範意識を育む活動プログラムの開発

子どもたちが主体的に判断し、よりよい集団を形成していく力を育てていくために、内面化された規範を他律から自律へと高めていく必要がある。そこで、規範意識を育む活動プログラムを開発した。活動プログラムを構成する際、「規範を理解し、重要であると感じること」「自分たちで必要な規範を考えること」「よりよい規範に変えていこうという意識をもつこと」「実感を伴った理解であること」の四つを意識した。発達段階に応じた活動プログラムとするために、各学年で付けたい力を設定した。活動プログラムは、道徳の時間、学級活動、各教科等での集団活動を活用している。それぞれの授業において、規範意識を育むための授業の視点を設定し、より効果的に子どもたちの規範意識を高めることができたようにした。

第3章 規範意識を育む活動プログラムの実践を通して

第1節 中学年（第4学年）での実践

○宿泊学習を活用した活動プログラム例

この活動プログラムは、宿泊学習での集団活動と関連させ、身近にあるルールやマナーの意義を考え、それらを大切にしようとする態度を養うことをねらいとしている。道徳の時間には、社会のルールやマナーの意義を考え、子どもたちは、自分だけでなく人の気持ちを考えて、社会のルールを守っていこうという思いをもつことができた。学級活動では、「ルール百人一首」というゲームを通して、身の周りにはどのようなルールやマナーがあるのかを考えた。授業の最後には、大切にしていきたいルールやマナーを考えることができた。道徳の時間や学級活動で考えたことを活用して、楽しい宿泊学習を行うことができた。

○集会活動を活用した活動プログラム例

この活動プログラムは、集会活動の一連の活動を通して、協調的な態度を養い、自分たちで楽しい学級をつくらうとする自治的な態度を育てることをねらいとしている。道徳の時間には、協力することについて考え、協力することは、自分の良さを出し合うことだととらえることができた。学級活動では、お楽しみ会の名前や内容について話し合い、交流学級の子どもと、もっと交流を深めるためにはどうしたらよいかを考え、内容、名前を決定することができた。お楽しみ会においては、準備の段階から自発的に協力して活動し、楽しいお楽しみ会を開くことができた。

第2節 高学年（第6学年）での実践

○係活動を活用した活動プログラム例

この活動プログラムは、係活動の一連の活動を通して、相手の立場に立って行動し、みんなが過ごしやすい学級をつくっていこうとする態度を養うことをねらいとしている。道徳の時間には、マナーについて考え、マナーとは相手のことを考えて行動する気配りであると考えることができた。学級活動では、係活動を活発にするためにはどうしたらよいかを話し合った。やらなければならないと縛りをかけるきまりをつくるのではなく、お互いに気配りをしながら声をかけ合って活動することが大切だと気付くことができた。また、活動の様子をわかるようにし、自ら進んで活動したり、みんなで声をかけ合ったりすることができるように、みんなで係活動カレンダーをつくり、自発的に活動することができた。

○学芸会を活用した活動プログラム例

この活動プログラムは、学芸会の一連の活動を通して、自分の役割について自覚をもち、責任を果たすとともに、信頼し合い、協力してよりよい学級をつくっていこうとする態度を養うことをねらいとしている。学級活動では、学芸会に向けて、どのように取り組んでいくかを話し合い、はじめにスローガンを決め、目標を共通理解した。目標に向かうために、「一人一人がやる気を出し、責任を果たす」という学級の規範を考えた。このことにより、学芸会の練習では、自分で考え、判断して活動する姿が見られた。また、本番では自分たちで考え劇をつくり上げたことにより、達成感を得ることができる活動プログラムとなった。

第4章 ともに生きる集団を育てる学級経営

第1節 研究の成果と課題

規範意識を育む活動プログラムの実践を通して、自分たちできまりをつくり活動する姿や、お楽しみ会やスポーツ大会を開き、みんなで協力して楽しむ姿が見られた。また、学級の全体に関わることで、学級会を開き、話し合って意思決定をしたり、解決したりする姿が見られた。これらの成果の理由としては以下の3点が挙げられる。

- ① 規範の大切さを感じることができるよう、教師が意図して授業を設定すること
- ② 学級会を開き、自分たちで規範を考えたり、規範を守ったりして行動すること
- ③ 事前、事後指導を行い、規範の有用性を確かめること

課題としては、活動プログラムで見られた自発的、自治的な活動を継続できるように工夫が必要なことである。学級の子ども全員がサイクルとして①～③と活躍できるような日常からの教師の指導や支援が必要不可欠なのである。

第2節 学級経営力の向上に向けて

よりよい学級集団を育成していくためには、意図的、計画的な取組が必要である。そのためには、学級経営案を年間通して活用し、学級経営力を向上させることが大切である。学級経営案を年間計画の形で作成することで、1年間意識できるものになるのではないかと考える。

また、日々の子どもたちに目を向けるきめ細やかな対応も大切である。学校には、教職員が様々な工夫を重ね、実践してきた財産が数多くある。この財産を「学校内通信」として発行するなどして、組織的に共有していくことが若手教員の意欲となり、学級経営力の向上につながると考える。